

米沢キャンパスケヤキ並木等に関する持続方針

[令和3年11月24日決定]

はじめに

米沢キャンパスのケヤキ並木は、約110年前の1910年に開校した国の重要文化財・旧米沢高等工業学校本館と最先端の教育研究施設群の間に位置し、東西約100メートルの通りに両側立ち並んでいます。それはまるで、偉大な先人たちの歴史と伝統をつなぎ、米沢キャンパスで学ぶ学生たちと「米沢の100年をつなぐ道」のようでもあります。

一方で、樹木の老朽化や歩道の安全確保が懸念され、キャンパスの排水設備改修の際には伐採することも検討されましたが、保存を求める多くの声があり存続することといたしました。

存続にあたり、この「米沢の100年をつなぐ道」に新たな息吹を吹き込むため、米沢キャンパス全体を地域におけるコモンズ（公共財）と捉え、市民や学生・教職員の交流・憩いの場として整備いたします。

景観を保全する並木を「米沢の未来へつなぐ道」として持続可能なものとするため、「米沢キャンパスケヤキ並木等に関する持続方針」を決定いたしました。

ケヤキ並木等の整備方針について

(1) ケヤキの現状

ケヤキは工学部の創立80周年記念事業として1990年10月に植樹され正門からキャンパス構内へつなぐ並木道となっています。

植樹後約30年が経過し老朽化が心配されましたが、樹勢調査を行ったところ、病気、台風、害虫等の被害がなく、通常管理下で今後30～50年は生き続けるとの報告をいただきました。ケヤキの長寿命化を図りつつ安全の確保、景観保全を検討する必要があります。

(2) ケヤキ並木の整備方針

ケヤキ並木が市民の散策路としての安全を確保するため、樹木の剪定を行い落枝や落雪に対応いたします。併せて、樹木周辺に植栽を行いキャンパスに色を入れていきます。また、ケヤキの樹勢調査を一定期間ごとに行い現状確認いたします。

(3) キャンパスのコモンズ化を含めた将来像

ケヤキ並木通りの車輛乗り入れを原則禁止とし、歩行者専用道路として安全を確保いたします。また、市民の皆さまや学生、教職員の交流の場として集うスペースを、防災対応を含め整備することにより、学生や教職員のリラックススペースとなり学習意欲・研究力向上、地域交流等の効果が期待出来ます。将来的には、散策路として並木のほかに西側の道路の整備や生協・食堂前広場、学生センター前広場の整備を行うことで、広く市民の皆様にも活用していただけるようにいたします。